

令和4年度 都城市立妻ヶ丘中学校 学校評価シート

4段階評価 4 期待以上（75%～100%） 3 ほぼ期待どおり（50%～74%） 2 やや期待を下回る（25%～49%） 1 改善を要する（0%～24%）

【学校の教育目標】 主体的に学び、心ゆたかに、たくましく伸びる生徒の育成

評価項目	具体的数値目標と達成状況	方策・手立て	アンケート結果	自己評価		結果の考察・分析 (○成果、●課題等)	最終評価	学校運営協議会委員より (○成果、●課題等)
				指標別	総合			
1 知育	分かりやすい授業が行われていると思いますか	保護者・生徒・教員のアンケート結果4	生徒 4 (86.9%) 保護者 4 (81.2%) 職員 4 (79.5%)	4	3	○分かりやすい授業において、生徒・保護者は高い数値であった。教員の授業力は、確実に向上している。 ○授業研究会及びICT研修は、今後も継続していく必要がある。 ●家庭学習の取組が、生徒・保護者・職員と大きな温度差が生じている。家庭学習の充実を目指して、どのような対策が必要か課題である。 ●テストの分析及び対策を各教科で徹底することが大切である。	4	○参観した授業では、生徒達が目を輝かせて意欲的に課題に取り組む様子が見られた。 ○キュビナの活用により、個別最適な丁寧な指導が実現している。授業を補助するアイテムとして有効活用されている。 ●家庭学習の取り組みに、保護者・生徒と教師に大きなズレが生じている。通塾の状況も勘案するべきだと考える。 ●全科目の平均値を上げることが大切にしつつ、得意科目（分野）に着目した能力の向上も大事である。その点についての指導状況や生徒の自己認識も知りたい。
	授業に集中していると思いますか	保護者・生徒・教員のアンケート結果3以上	生徒 4 (80.0%) 保護者 4 (76.3%) 職員 3 (56.4%)	3				
	家庭学習をきちんと行えていると思いますか	保護者・生徒・教員のアンケート結果2以上	生徒 3 (65.9%) 保護者 3 (53.1%) 職員 1 (10.1%)	2				
2 徳育	思いやりの心をもった行動をとっていると思いますか	保護者・生徒・教員のアンケート結果3以上	生徒 4 (87.2%) 保護者 4 (88.4%) 職員 3 (69.2%)	4	3	○思いやりの心を持った行動及びきまりを守った学校生活で、高い数値であった。学校が落ち着いている状況である。 ○ボランティア活動は、コロナ禍のために限られた状況であったが、その範囲内での取組はできた。 ○大きないじめ等の案件は生じていない。今後もアンケートを継続していく。 ○不登校生は大きな増加もなく減少もない。今後も、学校だけではなく、関係機関と連携を回しながら取り組んでいく。 ○人権教育の観点から、命の大切さを考える日及び妻中人権宣言は意義がある。今後も継続していく。 ○相談室の設置及び対応は本校の強みである。不登校生徒が、まずは相談室に登校できるような環境づくりを推進していく。	3	○生徒の高い自己評価と一致するように、生徒たちがいつも気持ちよく挨拶をしてくれる。 ○過去に学校が荒れていたと聞か、そうした問題行動は現在は全く見られない。歴代の先生方の現在の成果もあると思う。 ●不登校生の問題解決は、保護者との連携が不可欠な上、カウンセリングや専門医の協力も必要となるなるかもしれない。学習内容を取り戻すための個別の学習支援も必要となるが、教員のキャパシティを考えると、支援員の配置も必要かと思われる。 ●保護者や教員への相談状況については、他項目と比べるとアンケート数値が相対的に低いようだ。生徒が悩みや問題を打ち明けられる場、生徒の声を聞く機会の提供を増やすことは可能だろうか。
	学校のきまりを守り、よりよい学校生活を送っていると思いますか	保護者・生徒・教員のアンケート結果3以上	生徒 4 (88.9%) 保護者 4 (87.0%) 職員 3 (56.4%)	4				
	あいさつを積極的にしていると思いますか	保護者・生徒・教員のアンケート結果3以上	生徒 4 (92.0%) 保護者 4 (75.8%) 職員 3 (56.4%)	3				
	ボランティアを積極的にしていると思いますか	保護者・生徒・教員のアンケート結果2以上	生徒 3 (51.1%) 保護者 2 (49.8%) 職員 3 (59.0%)	3				
	悩みや相談があるときに親や教師に話せていると思いますか	保護者・生徒・職員のアンケート結果2以上	生徒 3 (65.1%) 保護者 3 (69.6%) 職員 2 (48.7%)	3				
3 体育	早寝早起き朝ごはんを心がけ、規則正しい生活をしていますか	保護者・生徒・職員のアンケート結果3以上	生徒 4 (77.5%) 保護者 3 (67.9%) 職員 2 (38.5%)	3	3	●規則正しい生活ができていない家庭が見受けられる。大きな課題である。 ●交通ルールの遵守等については、生徒・保護者・職員と大きな温度差が生じている。一部の生徒が守れていない状況である。家庭・地域との連携が必要である。 ●生涯体育を推進する上で、家庭への啓発等は必須である。 ●部活動の地域移行を見据え、部活動の精選及び整理等が急務である。	3	○部活動加入率が高いことは評価できる。スキルアップやコミュニケーション能力の向上などメリットは大きい。一方で、心身の負担につながらないような配慮は必要である。 ○自転車の運転マナーについては、一部の生徒ができていない。大半は守れている状況である。 ●生活習慣の乱れは、スマホ等の過度な利用、自己管理能力の未熟等の理由であろう。サポート体制について、家庭との連携が必要である。
	運動や部活動に積極的に親しんでいますか	保護者・生徒・職員のアンケート結果4	生徒 4 (84.9%) 保護者 4 (81.2%) 職員 4 (84.7%)	4				
	交通ルールを守り、安全な登下校を行っていると思いますか	保護者・生徒・職員のアンケート結果3以上	生徒 4 (96.0%) 保護者 4 (87.2%) 職員 1 (15.4%)	3				
4 ふるさと教育	地域の祭りや清掃活動等に積極的に参加していると思いますか	保護者・生徒・職員のアンケート結果2以上	生徒 3 (65.9%) 保護者 2 (43.9%) 職員 3 (51.3%)	3	3	○開かれた学校を目指し、学校HPに力を入れた結果、3月末でのカウンタ数50万件突破を目指していたが、12月時点で既にクリアした。情報発信は十分に行っている。 ○地域との連携は、コロナ禍のために限られた範囲となっているが、生徒会を中心に地域との連携を行い、高い評価を得ている。	○地域貢献活動では、コロナ禍の制約の中、生徒会を中心に、生徒が主体的に計画し、意欲的に取り組んでいる。 ○学校運営協議会は、地域社会に開かれた学校づくりに取り組む学校側の積極的な姿勢が伝わる。委員と学校職員が本音で意見交換ができています。 ●生徒会の自立した活動を「生徒会通信」などで発行し、地域に広めて欲しい。	